

きミス神戸よ。お前はいつたい何處へ行く——といひたくなるのは豈只僕一人でありませうか？

然も、新開地のグロ味はなか／＼こんなことでは盡きません。

公園のベンチに、花街の入口に、或ひは暗い路次裏に、多数のガイドと(神戸ではボンピキといふ)ストリート・ガールが縦横無盡に暗中飛躍をつゞけてゐる。

花街の入口あたりに屯ろしてゐるボンピキは、いゝ掠鳥を見つけるとたいていは平野の淋しい屋敷町に案内する。出て来るのは船員の未亡人や、盛り場のシヨップ・ガールなどで、大膽な女は夜の十二時前後になると單身出かけて交渉する。

けれども、なかにはさうした悪風を悠々端睨して生活戦線の第一線に立つ娘子群がある。湊川公園東側の道路に並んでゐる美人揃の關東煮屋の一團がそれです。

今もゐると思ふが石川屋のアサちゃん、ゑびす屋のツルさん、岡山屋のヨシちゃんなど、湊川のスリー・ガールとしてバラケツ愚聯隊たちさへ手を出しかねる女傑です。

開店當時は凡ゆる方面から誘惑の魔手がのびたが、彼女たちは何れも申し合せたやうに斷乎として

異性の誘惑を退けました。今日ではそれが素晴らしい評判となつて、紳士や粹人たちが軽い氣分で何等の野心なく彼女たちの料理を賞味してゐます。

エロの港に咲く美しい花として、いつまでも蕾のまゝで咲かせてをきたいものではありませんか？
えゝ、異議ありですつて？

まだ、前借料三萬圓の娼妓、共立檢の名妓、不見轉、いろいろ書きたいことはあるのですが、遺憾ながらこれ位にして、最後にブルジョア愚聯隊の巢窟と云はれる阪神沿線に逆戻りして神戸篇を終ることにしませう。

ブルジョア愚聯隊

神戸大阪間の沿線は、最も理想的なる郊外住宅地として、芦屋、住吉、杭瀬、夙川、香櫨園等々數へあけると際限がありません。

なにしろこの附近には高級サラリーマンや、会社の重役連の文化住宅がゴロ／＼して、不景氣風は

どこを吹いてゐるのか、まるで別世界の感があります。

然し、俸給が多かつたり、財産のある人間がみんな眞面目であるとは限つてゐません。寧ろ事實はその反対で、プロ級は安っぽい酒でも呑む以外には楽しみはありませんが、金のある人はさう簡単に人生を片づけるわけには参りません。

ですから、阪神間にあるダンス・ホールは神戸市内にあるそれよりもずっと美人が多いし、出入する客種がもつと上流であつたり、ホールの規模が壯大であつたりすることは、少しも不思議ではありません。

佛教信者からはまるで生佛さまのやうに云はれてゐる大谷尊由氏などが、チャキチャキのモガと喰つき合つて踊つたからと云つて、別にそれは不思議でもなんでもないのです。

寶塚會館、大物のキング、東長洲前のパレス、杭瀬のダンス・ホールなどは上流の御夫人や、そのマドモワゼルたちの最もよきさ晴しの場所でなければなりません。

辰馬家の若奥様が若い安月給取と一緒になつたり、由緒ある實業家の令夫人が外人と六甲ホテルに

雲隠れしても、或ひは又脂肪ぶとりにふくれ上つたトツチャンボーイがダンサーを娘のやうに見せびらかせて歩いて、そんなことはたいした問題ではありません。

たゞいけないことは、變なナイトクラブをつくつたり、怪しからぬ映畫を若い職業婦人に見せたりすることです。

かなり以前にも六甲クラブと云ふのが檢舉されて、ビール樽みたいな禿頭連が頭をペコ／＼下けてやつと勘辨してもらつたことがあります。咽喉元すぎれば何とやらで、最近はこの種のクラブが又二つ三つ出来たやうです。そのたびにダンサーなどが引合に出されたのでは一寸可愛さうですから、彼女たちにはせいぜい假裝舞踏會や、野球チーム位のところまで喰ひとめてやつて欲しいものです。

あまりあばき散らすとどんな飛ばつちりが来ないとも限りませんから、阪神沿線のナイトクラブは只あるといふことだけに止めてをきませう。

その申わけといふわけでもありませんが、阪神沿線ダンス・ホール評判記を二つ三つ記載してお茶を濁します。

キングの巻

一つのダンス・ホールに三人もの姉妹が一緒に踊つてゐる例は他では見られない。キングの浦川政子ら三人姉妹は、何れも獨身者で結婚の申込は末っ子からでも誰からでも差支へないさうです。

名ダンサー市原の勝美さんの妹正恵ちゃん、杭瀬のドサクサ（どんなドサクサつて説明は要しませんが）にまぎれてキング入りして了つた。

その正恵ちゃんが珍らしくも先日、大學生の拳闘大會に見物に行つて、萬緑叢中の紅一點ぶりを見せました。關大のミーさんの應援に行つたらしい。

スペシャル・ショーのゆふべに塚原の綾ちゃん、日本舞踊「唐人お吉」を踊つた。粹な艶姿に「えーなあ」と恍惚したのは、ヤーさんはヤーさんでも老人の方のヤーさんではなかつたでせうか。

寶塚會館の巻

一ヶ月餘もの長い間、ベッド生活で難病に呻いた萩原郁子、久しぶりでホールに出勤して

「寶塚のあの救済者を一生恨んでやるわ」

と怨み言。と言つて色戀の沙汰ではなく、なんでも怪しい丸薬を吞まされたのが祟りで盲腸炎にかつたのだと彼女は思ひつめてゐるらしい。

杭瀬の巻

舊臘、生駒へ奔つた浦とし子が半月ぶりで又杭瀬へ舞ひ戻つた。島田姿のよく似合ふ左袂出身のアノ子が断髪して了つた。「なんで毛を切つた。」と氣になる人がきくと、黙つて涙ぐんでゐた。なんでもやろ。

古川綾子はピアノの菊地君と一緒にたつたのでホールをやめた。赤新聞に菊地君は十何回目かの結婚と報道してあつた。

かうしたポピュラーなゴシップによつてさへ、その内狀の並々ならぬものが想像される位だから、發表されないものに至つては押して知るべしではありませんか。

サテ、今回は以上で日本歌樂郷案内を終わりますが、他の土地については今後とも機會あることに發表して行くつもりであります。

日本歌樂郷案内終

昭和六年四月十一日 印刷
昭和六年四月十五日 發行
昭和六年五月十七日 再版發行



談奇群書發刊辭

元來私は一粒糶りの珍本を、出来る丈贅澤な装幀で、一流の製本家の手にかけて、冊數も四五百位の限定版を出す事が好きでした。

所がこの道樂は甚だよくないと云ふ事だ。何故だつて聞いたら、白米十五キロが二圓か三圓で買へる時代に、一冊の本に五圓十圓出す馬鹿者(イヤ失敬)があるものと云ふ答へだつた。

其處でつら／＼熟慮した結果、目下連續著述の「談奇」をやつてゐる序でに、安くていゝ本を作つて見度いと發願した。斯う考へたのは、白米十五キロ問題で一本參つた所もあるが、必ずしもそれ許りではない。と云ふのは、私達の仲間内で、酒井と云ふ男は、高い材料を使つて、贅澤な本しか作れないと云つた様な批評がある。これは褒めたのが貶したのが分らんが、兎に角私としても、一かどの装幀家を以て任じて居る手前、安い材料を使つたつて面白いものが出来ない答はないッ、と柄にもなく、慨然として立ち上つたと云ふわけである。

すると、又皮肉な男が、今時装幀が面白いと云つて本を買ふ人間はないよ。白米十五キロが……待つた！ 待ち給へ！ もう十五キロ三圓の話は分つたよ。よろしい。そんなら内容も、うんと肩の凝らぬ面白い、大衆的で上品で、深刻で、皮肉で……まづこれを讀んで面白くないと云ふ男は、餘程念の入つた低能兒(オット又失敬)だと云ふ物を作つて御覽に入れやう。

と云ふ素晴らしい意氣込みで計企したので即ち、此の「談奇群書」であります。

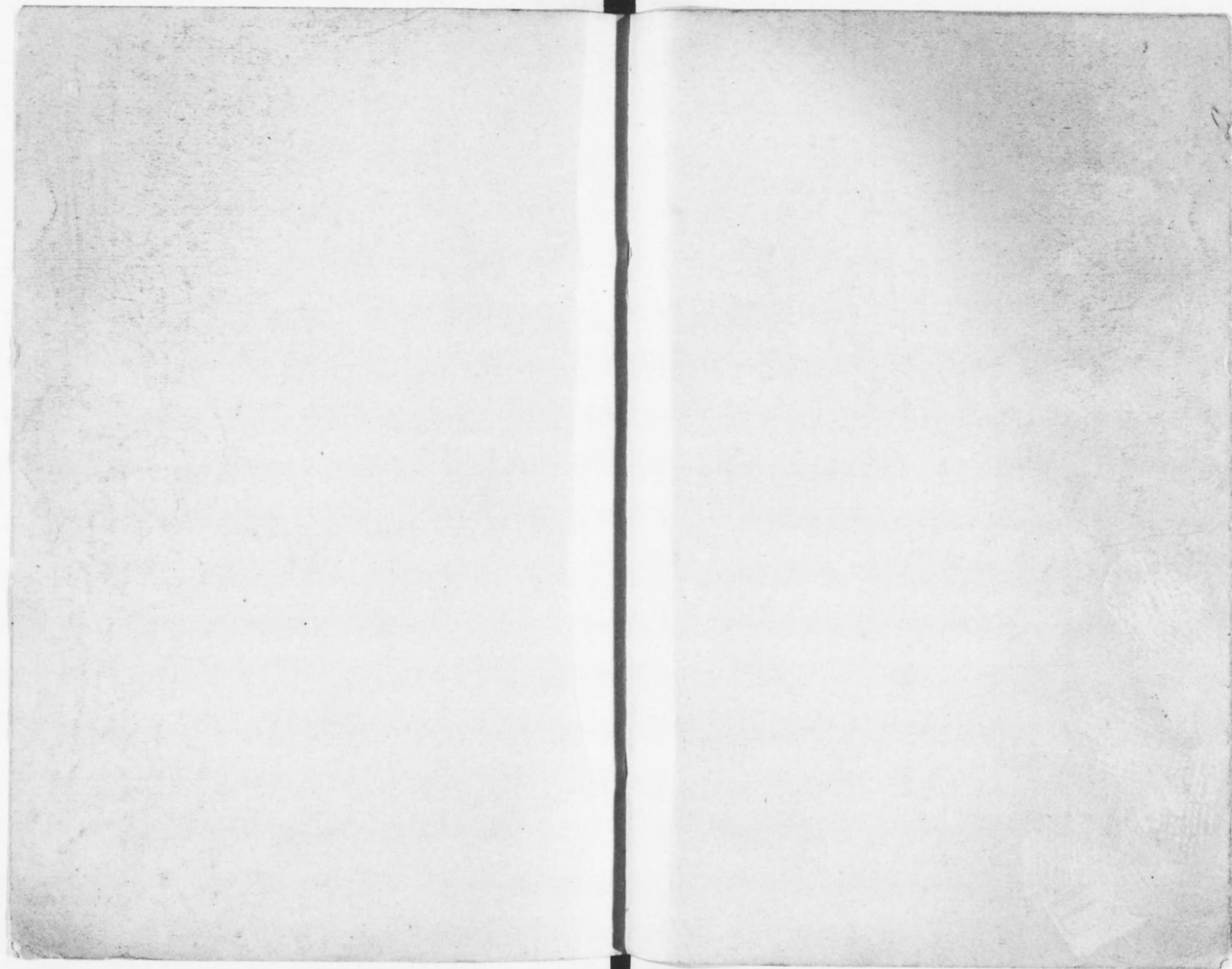
談奇群書既刊目錄

- 第一編 「巴里上海歡樂鄉案内」 定價金壹圓五拾錢・送料十二錢
- 第二編 「奴 隸 祭」 定價金壹圓貳拾錢・送料十二錢
- 第三編 「浮世オン・パレード」 定價金壹圓八拾錢・送料十二錢
- 第四編 「日本歡樂鄉案内」 定價金壹圓五拾錢・送料十二錢

發行所

東京市本區丸山福山町十三
振替口座東京二四三番

竹 醉 書 房



終

